

国立国会図書館関西館
令和5年度アジア情報関係機関懇談会
2024年2月9日

アジア資料収集の 今後に向けて

京都大学附属図書館研究開発室 北村由美



構成

1. ご報告内容へのコメント・質問
2. コレクション評価手法の一例
3. 今後に向けて

1. ご報告内容へのコメント・質問

共通する課題

- 資料購入費の削減
- 冊子体 OR 電子媒体（特に逐次刊行物）
保存 VS 利便性
- 出版国の状況が多様
- 蔵書評価の目的・手法

報告①「アジア情報室の蔵書 評価」に関して

- (C) 社会科学に重点をおく方針でありつつも、中国語資料における人文科学の重要性を明示
- (Q) 逐次刊行物購入の今後？電子 VS 冊子？
保存？

報告②「東京大学アジア研究図書館の蔵書評価」に関して

- (C) 移管によって、学内のアジア関係蔵書が一括
⇒学内外利用者に見通しのよい環境を提供
- (C) (Q) 寄贈の受け皿
⇒重要だが、コレクション化はどこまで必要？
- (Q) アジア研究図書館の強みを出す戦略？
- (C) 報告①の事例のように、各言語ごとにCiNii Booksとの重複率を調べてみると、蔵書の独自性が明らかになるのではないか

報告③「九州大学附属図書館所蔵の アジア関係資料」に関して

- (C) 寄贈・購入別に加えて費用別の分析から特徴が明確化
- (Q) 外部資金での購入金額増加の理由？
- (Q) 韓国語資料が増加予定だが、今後の図書館収書方針への影響？

報告④「アジア経済研究所図書館の 海外資料購入」に関して

- (C) 海外の資料の直接購入は、コレクション充実＋地域に精通した図書館員の育成
- (Q) 海外のオンライン資料の位置づけ・購入方法？

報告⑤「東京都立中央図書館の海外資料構築」に関して

- (C) 蔵書形成と配架方針の有効的な組合せ
- (C) 利用実態・満足度調査が充実
- (Q) 令和元年度と令和3年度の中韓資料の利用者の不一致
⇒利用者層にあわせた蔵書構成は可能？

2. コレクション 評価手法の 一例

日本の東南アジア 研究と図書館 コレクション

2022年東南アジア学会
ラウンドテーブルスライド再掲



日本の図書館は東南アジア研究に寄与しているのか？

- 『東南アジア 歴史と文化』掲載論文のうち、1995年から2015年の21年間に出版された、「論文」65本、「研究ノート」6本、「研究最前線」(動向レビュー)1本の計72本の引用文献のうち存在が確認された2,118件を分析
- 被引用文献が著者の所属機関に所蔵されているかを確認

佐藤 翔, 設楽 成実, 矢野 正隆, 北村 由美 (2022) 「『東南アジア 歴史と文化』誌掲載論文の引用文献の傾向と著者所属機関における所蔵状況」 『情報知識学会誌』 32 (1), 73-87

被引用文献の種類 (N = 2,118)

表 1 被引用文献の種類 (N = 2,118)

	件数	割合 (%)
図書	1,328	62.7
逐次刊行物	560	26.4
学位論文	43	2.0
アーカイブズ資料	173	8.2
オンライン資料	12	0.6
地図	2	0.1

被引用文献の言語 ($N = 2,118$)

	件数	割合 (%)
日本語	683	32.2
英語	851	40.2
その他言語	584	27.6

その他の言語の内訳 (N = 584)

	件数	割合 (%)
ベトナム語	158	27.1
オランダ語	112	19.2
インドネシア語	104	17.8
中国語	79	13.5
タイ語	40	6.8
マレー語	37	6.3
フランス語	28	4.8
ビルマ語・ ミャンマー語	15	2.6
ラオ語	3	0.5
スペイン語	3	0.5
ラテン語	2	0.3
タガログ語	2	0.3
ドイツ語	1	0.2

被引用文献の種類と言語の関係 (N = 2,118)

		日本語	英語	他言語	言語計
図書	度数	422	570	336	1,328
	%	31.8%	42.9%	25.3%	100%
	残差	-0.6	3.3	-3.0	
逐次刊行物	度数	241	179	140	560
	%	43.0%	32.0%	25.0%	100%
	残差	6.4	-4.6	-1.6	
その他	度数	20	102	108	230
	%	8.7%	44.3%	47.0%	100%
	残差	-8.1	1.4	7.0	

英語は逐次刊行物の割合が低く、最新動向を終えていない可能性を示唆

被引用文献の種類と所蔵状況の関係 ($N = 2,118$)

		所蔵あり	所蔵なし
図書	度数	636	692
	%	47.9%	52.1%
	残差	7.7	-7.7
逐次刊行物	度数	238	322
	%	42.5%	57.5%
	残差	0.6	-0.6
その他	度数	5	225
	%	2.2%	97.8%
	残差	-12.8	12.8

被引用文献の言語と所蔵状況の関係 ($N = 2,118$)

		所蔵あり	所蔵なし
日本語	度数	468	215
	%	68.5%	31.5%
	残差	17.4	-17.4
英語	度数	280	571
	%	32.9%	67.1%
	残差	-6.6	6.6
他言語	度数	131	453
	%	22.4%	77.6%
	残差	-11.0	11.0

被引用文献の言語と所蔵状況の関係 (N = 2,118) 逐次刊行物に限定

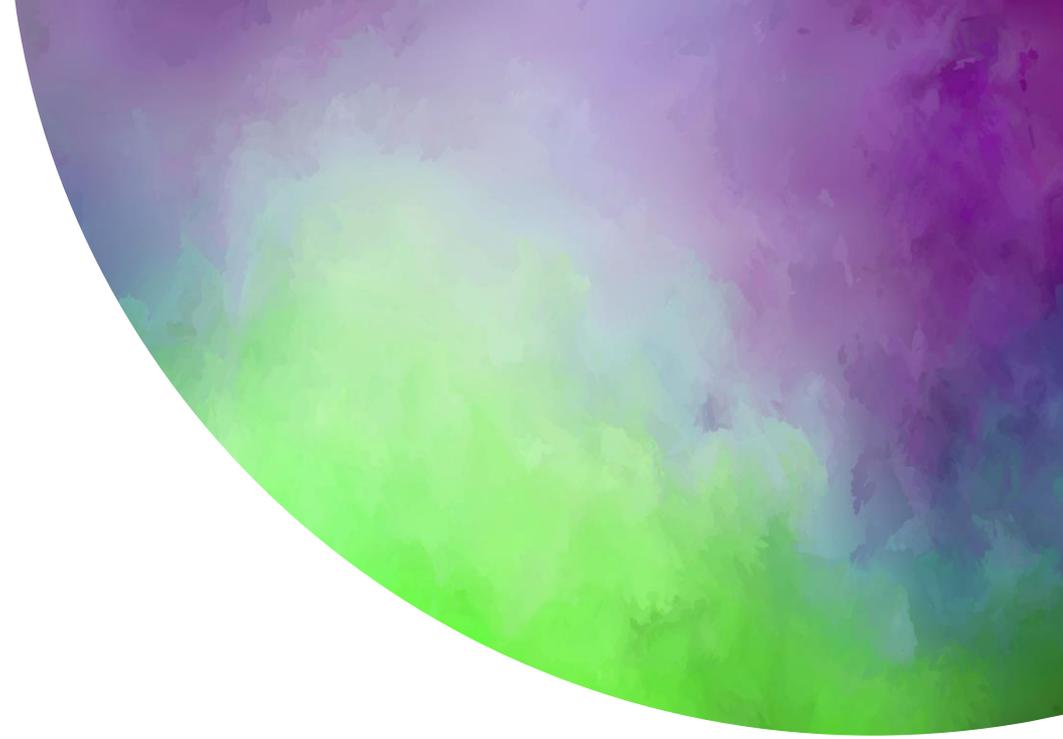
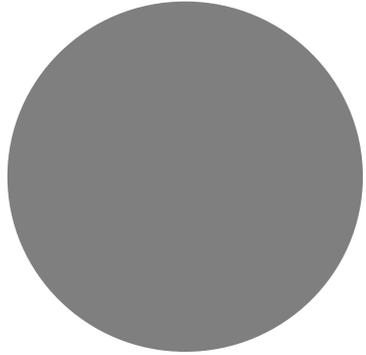
		所蔵あり	所蔵なし
日本語	度数	156	85
	%	64.7%	35.3%
	残差	9.2	-9.2
英語	度数	46	133
	%	25.7%	74.3%
	残差	-5.5	5.5
他言語	度数	36	104
	%	25.7%	74.3%
	残差	-4.6	4.6

まとめ

日本語以上に英語文献の役割が大きい

その他の言語の被引用文献のうち、図書館所蔵の割合が4分の1と非常に少ない

⇒英語資料・東南アジア諸語資料が不可能な研究分野における図書館の役割とは？

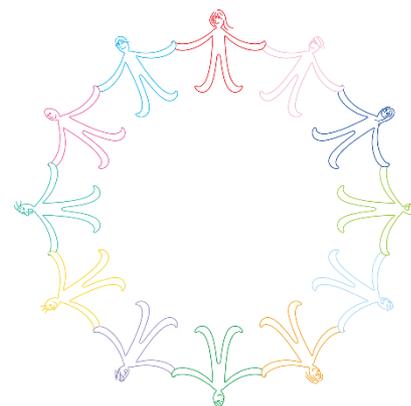
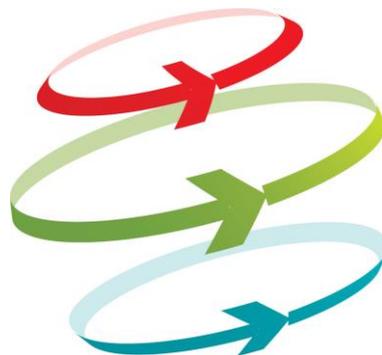


3. 今後に向けて



アジア資料コンソーシアム？

- 全方位型ではなく、それぞれの館の特色を伸ばしつつ、協力によって補完する体制へ



- 海外のオンライン資料の共同収集体制の構築